

## 金曜コラム - 有効期限を過ぎた公正な特惠

### ジョン・ヨン Chol(西江大学校教授、体育市民連帯執行委員)

先週父から電話がきた。軍入隊を控えた孫とソンサンに行って来るといふ。大きなことを控えて先祖様に必ずご挨拶をしなければと言つて、アイドル級のスケジュールを消化している孫の貴重な一日を奪つてしまった。1966年、入隊を控えた私の父もその父親と一緒にこの墓を訪れたといふ。記憶をたどつてみると私の父と同じ理由でその場所に行ったようだ。2018年、墓を背景に撮つた写真を見ると祖父と孫の表情がいかにも悲壯である。約25年周期で我が家の男たちは国防の義務の前に悲壯になっている。

私的な家の話で兵役特例といふ公的な問題の文を開始する理由は、この事案が韓国の男性にとって非常に私的だからだ。同時に世代を超えてきつちり共有している普遍的な体の記憶である。男たちが集まれば軍隊の話が抜けず、最後は軍隊でサッカーをした話で締めくくる理由だ。

これまでの運動選手の兵役特例について複数回の議論があつたが、今回のように激しかつたことはなかつた。サッカーと野球の決勝があつた去る1日だけでも青瓦台国民請願掲示板に80件余りの関連請願が上がつてきたといふ。国威宣揚のための優れた運動選手に兵役免除を与えなければならないといふファンの声と時代に合わないといふ反論が約半々である。延長戦まで至つて千辛万苦の末、金メダルを獲得したサッカーチームと、アマチュアレベルのチームを相手に子供の手首を捻るように金メダルを取つた野球代表チームが比べられ、兵役忌避の手段に転落した金メダルを嘲笑し始めた。ある国会議員は、国威宣揚の側面で見るとビルボード1位を占めた防弾少年団が金メダルよりも大きい、と運動選手兵役特例の議論を増大させた。

運動選手に兵役特例給付を与え始めたのは1973年からだ。朴正熙政権が法を作つて「国家の利益のために」運動選手に兵役特例給付を「合法的」に与え始めたのだ。国際大会で優勝し国家の地位を高めることが切迫していた時期なのでそうなつた。その当時には必要だつたし、受け入れられた特惠だつた。一時、神の子と呼ばれた数多くの不法兵役免除者に比べると金メダルを取つて兵役を免除される選手たちは堂々とするに値した。1976年モントリオール五輪で韓国初の五輪金メダルを獲得したレスリングのヤン・ジョンモ選手が最初の兵役特例事例だ。当時、国際大会でメダルを取るの是一般的なことでなく、是非は少なかつた。むしろ誇りに満ちて得られた堂々とした特惠として認められる雰囲気だつた。

ヤン・ジョンモの初の金メダル以来、オリンピックやアジア大会などの国際大会で韓国選手たちが獲得した金メダルの数は、45年前には想像し難いレベルに増えた。大韓民国といふ国は、あえて金メダルといふ方法で広く知らせなくても良い「国威」が生じた。また今、軍入隊を控えている若い世代は、キャンドル革命といふ世界史的民主主義革命を体で経験した。金メダルといふ結果よりも、そのメダルを作り出すまでの過程を重視する世代が誕生したのだ。

兵役特例は一言で言えれば有効期限の過ぎた公正な特惠だ。大韓体育会イギフン会長が言及したマイレージ制

(注) や大衆芸術人の兵役特についての公平性議論は、最終的に「公正性」を高めようとする提案である。

(訳注：9月2日の記者会見でイギフン会長は「オリンピック、アジア大会はもちろん、世界選手権まで含めて成績に応じてマイレージをたくさん積んだ選手に兵役恩恵を与える案(スコア累積制)はどうか」と述べた。兵役法施行令によるとオリンピックで3位以上、アジア大会で1位の選手は体育要員として編入

され、4週間の基礎軍事訓練を受けた後、3年間、メダルを取った種目で活動すれば兵役を免除される。) いくら悩んで公正性を高めたとして最終的に、その形容詞の修飾を受ける言葉は「特惠」だ。より良い社会の特徴は特惠が減ることにある。公平性を問題視して特惠を拡大しようとする主張は、だから間違っている。公平な特惠だろうと合理的な特惠だろうと特惠は減らすべき、終局的には消えるべき特別な恩恵であるだけだ。

## 01 ジョイニュース 24 2018.9.4 【 一つになった南と北、同じ視線で未来を見る 】

一つになった南と北はこれまで以上に平和な雰囲気の中で固く団結し結果を出しました。今は同じ視線で未来を見る時です。

去る2日に閉幕した2018ジャカルタ・パレンバンアジア大会で韓国は金メダル49個、銀メダル58個、銅メダル70個、メダル数177個、総合3位で大会を終えました。

しかし、ここに加えられていないメダルがあります。まさに南と北が一つになって作られた単一チームの成績です。単一チームは今回の大会で、金1個、銀メダル1個と銅メダル2個をとりました。龍船とカヌー、女子バスケットボールなどの成果です。

もちろん、南と北が互いに力を合わせたので、どちらにも属さないことが正しいです。メダルの数や色とは別に、単一のチームとして大会に参加して加わりメダルまで獲得したことに大きな意味があります。

最も注目を浴びたのは、やはり女子バスケットボール単一チームでした。昨年、国際バスケットボール連盟(FIBA)アジアカップで得点王に輝いた北朝鮮のバスケットボールエース、ロ・スギョンと素早いガードジャン・ミギョン、キム・ヘヨンなどが韓国女子プロバスケットボール(WKBL)トップ選手たちと足並みを揃えて大会に参加しました。コーチ陣も南側のイ・ムンギョ監督、ハ・スンレコーチと北側のジョン・ソンシムコーチが参加し、その意味を加えました。

大会序盤までは呼吸の問題が明らかになりました。バスケットボール用語で使う言葉が違うので、素早い戦術伝達がされなかったり、選手たちの動きが多少食い違う場面が出ていました。しかしイ・ムンギョ監督は「時間が解決してくれるだろう」としながら信頼を示しました。

結局、その言葉通りとなりました。エースのロ・スギョンは些細な言葉の障壁をまるで無視するように得点を重ねました。パク・ヘジンとジャン・ミギョンはツーガードシステムでも良い呼吸を見せてくれました。最年長イム・ヨンヒは彼女たち皆をまとめるリーダーシップでチームを一つにしました。

これらの調和がなされて単一チームは決勝まで進出しました。世界最強とも言える中国に65-71で惜敗しましたが、最後まで素晴らしい競技力でファンの拍手を受けました。南と北の高位関係者が一緒に手を取り合うシーンよりも、彼らの汗と笑顔、涙がコートに交わる場面で国民は喜びを感じました。

彼女たちは3日、選手村を退村する瞬間まで一緒に惜別の情を交わすなど温かいシーンを演出しました。そしてもう一度会いたいという気持ちを隠すことができませんでした。ロ・スギョンは決勝戦が終わった後、「統一すれば私も南に行くことができ、南の選手たちも北に来ることができる」とし「一緒にスポーツをしたい」という切実な願いを表わしました。

このような願いは単に夢にとどまらない可能性があります。南と北は単一のチームについて議論を着実にしています。イ・ギフン大韓体育会長は「北朝鮮とのスポーツ交流を拡大している。単一チーム種目も増やすことができるように努力したい」と言いました。ワン・ギルウ北朝鮮選手団長もまた「今後、単一のチーム

をより多くしなければならない」とし「議論している」という言葉で期待感を高めました。

実際にいくつかの種目では実務レベルでの協議も進行する意をのぞかせており、単一チームの数は今後さらに増える可能性も少なくありません。

もちろん、単一チームを構成しようとする試みが今までなかったのはありません。実際に 1991 年に世界サッカー青少年ワールドカップ時には単一チームとしてチームを作って行き、また、同年南北卓球単一チームが結成されたりもしました。しかし、これが挑戦半島の平和に直結されていませんでした。

しかし、女子バスケットボールの成果が出てきて、今度は異なるという期待感がますます高まっています。平昌冬季オリンピックでの共同入場を介してお互いの意志を確認した南と北です。多分分断以来、最も平和な時期にさしかかっているのかもしれない。

高位関係者たちの握手も重要ですが、これらのスポーツ交流でお互いをより親密に感じていくことが、将来に向けたより良い選択となるでしょう。スポーツを通じて南と北が同じ視線、同じ歩幅で進んでゆけば真の平和につながる可能性が高いからです。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=111&aid=0000533254>

## 02 毎日経済 2018.9.6

### 【 45 年間頻繁に改めてきた兵役特例。ブーメランになって帰ってきた 】

「軍免除を受けるために出場したことが疑われる選手も免除してあげるのですか?」「純粋芸術は兵役特例対象なのに大衆芸術はなぜ対象外なのですか? 国際映画祭で入賞した映画は?」

芸術・体育兵役特例の適切性議論が佳境に入っています。兵役不正問題のたびに湧き上がる公平性論議に最近閉幕したアジア大会を前後して、妥当性の議論まで加わりました。大衆は「2018 アジア競技大会」を通じて軍免除を受けられた何人かの選手たちの意図と内心まで推理するなど、「顕微鏡検証」を進めています。しかし、このように厳しくなった基準と難解になった問題は、過去 45 年間で大型国際大会が開催されるたびに、一貫として基準なしに兵役特例規定を作り直した過去の行動がブーメランになって帰ってきた結果です。

芸術・体育特技者が自分の得意分野で従事していることを軍の服務と認める兵役特例制度は、我が国だけの独特の代替服務制度です。1976 年ヤン・ジョンモ（レスリング）選手をはじめとして以降、ソン・ドンヨル（野球）、朴賛浩（野球）、パク・チソン（サッカー）、柳賢振（野球）、キ・ソンヨン（サッカー）、ソン・フンミン（サッカー）選手など多くのスポーツマンに軍免除を与えました。さらに、1990 年代の世界囲碁界を平定した李昌鎬九段は囲碁界と市民の嘆願で、1994 年に兵役特例対象にもなりました。兵務庁によると、今年 5 月 31 日現在、国内に芸術要員 67 名の体育要員 17 人の計 84 人が芸術体育要員として服務中です。

1973 年朴政権時代に初めて導入されたこの制度はオリンピック、アジア大会、世界選手権大会、ユニバーシアード大会、アジア選手権大会で 3 位以内に入賞した選手に兵役特例を認めました。しかし、関係中央行政機関の長が認める者と韓国体育大卒業成績上位 10%以内である者にも特例を認めるなど便法の余地が大きかったです。以後、1984 年にはオリンピック 3 位以内、世界選手権大会（青少年大会を含む）・ユニバーシアード大会・アジア大会・アジア選手権大会 1 位入賞者に範囲が変わりました。「韓国体育大卒業成績上位 10%以内」の条件は維持されました。対象者の範囲が小幅に縮小されたにもかかわらず、兵役特恵を受

ける人が過度に増えたという批判が起こり、1990年にオリンピック大会3位以上、アジア大会1位入賞者だけが兵役特例を受ける改訂をしました。

しかし、2002年に韓日ワールドカップサッカー代表チームが史上初めて16強に進出し、兵役特例対象者の範囲は再びその場しのぎで逆転します。サッカー代表チームの選手たちに兵役恩恵を与えようという世論が大きかったからです。これに政府は特別法を発効してワールドカップ16強以上を兵役特例対象に追加しました。2006年にも同様のことがありました。WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で韓国チームが宗主国米国と日本に勝って4強に上がるや、WBCベスト4にも兵役特例を付与する特別法が作られたからです。しかしその後、利益が乱発されているとの批判の世論が起こり、兵役履行の公平性向上のための代替服務制度の廃止や、縮小政策に基づいてワールドカップ16位WBC4位兵役特例条項は2007年に戻って削除されました。客観的基準なしに頻繁に変わる「ゴム定規」のせいで今回の「2018アジア競技大会」の後、兵役特例議論が再点火されたという指摘が出てくる理由です。

最近兵役特例議論が火がついた原因としては、過去に比べて兵役特例を見る大衆の基準が一層厳しくなった点も挙げられます。「2018アジア競技大会」で大会に出場した一部の選手たちが軍免除を受けることになり、様々なオンラインコミュニティで該当する選手たちが軍免除を受けることの公平さ、公平性の検証が行われました。アイドルグループ防弾少年団を例にあげて「兵役特例に体育分野は認めながら大衆音楽の分野で韓国を世界に知らしめた芸能人はなぜ除くのか」「公平性に合わないから、兵役特例対象分野を拡大するとか、最初から廃止しなければならない」など意見があふれました。また、アジア大会に出場した何人かの選手については「過去に軍服務とスポーツを並行することができる方法があったのに動きもせず今回の大会に出場した」とし「大会出場の意図が疑わしい」という指摘が出ていました。今公平性と公平性はもちろん、芸術・体育の意図も検証対象になったわけです。

兵役特例を見る大衆の基準が過去に比べて一層厳格になったのは兵役特例制度に対するアンケート調査の結果で如実に表れています。去る5日、世論調査機関リアルメーターがTBSの依頼で兵役特例制度改善の方向に対する世論調査を実施した結果、「対象者は拡大、受益者は縮小」という答えが28.6%、「全面廃止」の回答が26.8%でした。回答者の過半数（53.4%）が兵役を縮小したり、廃止する意見に同意したわけです。

性別でも「対象者の拡大／受益者縮小」（男性32.0%、女性25.2%）が男女ともに最も高く、特に男性でより高い支持を受けました。

「全面廃止」が23.8%で2位に上がったことも注目すべき部分です。憲法に明記された義務である兵役を人気スポーツや芸術の分野に従事しているとして特惠を与えることが、広い意味での公平性に反するという世論が少なくないことを示しています。今の制度をそのままにするか、または拡大しようという立場である「現行制度を維持しなければならない」が21.4%、「対象者と受益者の両方を拡大しなければならない」が13.3%で続きました。

兵役特例についてこのように民心が激しくなると、文化体育観光部は5日、芸術・体育の兵役特例制度の改善の方向を議論するための専門チーム（TF）を5日に構成しました。TFは芸術界とスポーツ界の意見を集約して兵務庁、国会などの関係機関との議論に参加することになります。

兵役主務官庁である兵務庁も体育・芸術分野の兵役特例制度の全面見直し方針を明らかにし、特例制度がどのように変わるのか関心が集まっています。兵務庁は再編の方向や時期など具体的な内容は決定されていないという立場ですが、体育・芸術分野のほか、義務警察・産業技能要員・公衆衛生医師など兵役に代わるすべ

ての特例制度の変更が避けられないという見通しです。

兵役特例制度を無くすかについては、国民の意見が分かれている状況です。青瓦台国民請願掲示板に投稿したある請願人は「国威宣揚は民主主義を破壊した軍事政権時代の専売特許」とし「国威宣揚は運動選手がするのではなく、中小企業で昼夜を問わず働いて勤労所得税を忠実に出す輸出の担い手がするだろう」と明らかにしました。続いて「韓国の貿易が世界 11 位に上がった時、国威宣揚がなされた」とし「予備入隊者が豊富だった時代に兵役特例が実施されたが、今ではその逆に軍隊を送る方法を見つけるとき」と付け加えました。

一方、他の請願人は「韓国の有能な選手が支援不足とパワハラにより帰化している状況なのに、兵役特例をなくせば誰が国のために競争するのか」とし「自分たちの誠実な努力で国威宣揚を遂げた選手たちに兵役恩恵を維持しなければならない」と主張しました。

金ギョウォン慶北大社会学科教授は、「兵役特例をこれまでのように枝葉的なレベルで扱っているといろいろ例外が生じ、これに対して反感が生じた」とし「国民の目線が高くなっただけに、今回の機会に正確な国防計画の中で基準を再検討する必要がある」と言いました。金教授は「人口が減っている社会の特性を勘案した将兵の需給など、一層高い次元で兵役特例制度を扱う意志も必要だ」と付け加えました。

<https://news.v.daum.net/v/20180906174804106?rcmd=rn>

### 03 オーマイニュース 2018.9.6

#### 【 サッカー代表チーム監督のとても「短い任期」、このような内幕があったなんて 】

去る 5 日に放送された<追跡 60 分>は、大韓サッカー協会に関連する疑惑を取り上げました。放送は「彼らだけの王国、鄭家のサッカー協会」というタイトルでのサッカー協会と「現代」の癒着疑惑、利権乱用疑惑などを問題視して批判する内容でした。

また、サッカー代表チームの成績が不振のたびにサッカー協会が監督更迭で状況を免れるとして「密室更迭」論議が起きたチョ・グァンレ前代表監督の音声ファイルを公開しました。

▲チョ・グァンレ監督更迭の理由は「派閥」の問題？<追跡 60 分>が提起した疑惑

過去 2017 年、サッカー代表チームがカタール戦で敗れてシューティリケ監督が更迭されました。そしてすぐに、20 歳以下の代表チーム監督出身であるシン・テヨン監督が選任されました。ところが、その過程で釈然としない事件が起きました。2002 年ワールドカップの主役だったヒディンク監督が引退を控えて韓国サッカーのために「私にできることがあればする用意がある」と発言したことで知られたからです。

昨年 10 月に国政監査の場に出てきたサッカー協会ノ・ジェホ事務局長は「ロシアからのニュースを聞いて、慌ててキム・ホゴン技術委員長にこの事実を伝えた」と証言しました。以後ヒディンク前監督とキム・ホゴン技術委員長、そしてサッカー協会の間で真実ゲームが展開されました。結局キム・ホゴン技術委員長が辞任することで事態は一段落し、監督はヒディンクではなく、シン・テヨン監督が就任しました。以降のワールドカップでは、選手選抜論議と「トリック発言」（選手選抜と戦術の記者の質問にシン・テヨン監督は「トリックだった」と答えた）、戦術不在の議論が続いています。

事実、サッカー協会での監督更迭と新監督選任による議論は、新しい事件でもありません。ヒディンク監督の後、10 人の監督がサッカー代表チームを率いてきました。平均 1 年 6 ヶ月程度の期間、監督職を務めました。あまりサッカー代表チームで実力を見せてくれなかった監督を切ったと思いますが、放送に出てきた

専門家の立場は違いました。彼らは「協会が自分の責任を隠すために監督の任期を利用している」というように主張しました。

それだけではありません。放送によると、1994年当時のアメリカワールドカップを導いたキム・ホ監督は選手選抜と起用における監督の自律性が侵害され、応じなければ返ってくるのは「更迭」だったと話しました。サッカー協会の監督権限侵犯を主張したものです。

去る2011年のレバノン戦で敗れた後、チョ・グァンレ監督は、すぐに監督職を失った。<追跡 60分>は当時のチョ監督の更迭理由が試合の敗北ではなく、当時の会長選挙をめぐる派閥から始まったという主張が出ました。チョ・グァンレ監督が協会内野党に該当する人と近いというのが、更迭の理由だったのです。

「技術委員会で決定したんだ、これ（監督更迭）？ 副会長たちと皆（決定）した事だ。はい、分かった。お前は会長の使いだけしていれば良いんだ。」（チョ・グァンレ前監督の音声ファイル）

この日の<追跡 60分>は、直接入手したというチョ前監督の音声ファイルを公開しました。続くインタビューでシン・ムンソン解説委員は、「（音声ファイルの中の内容を）直接聞いた」とし「チョ・グァンレ前監督がサッカー協会内の派閥のために更迭された」と主張しました。

「チョ・グァンレ監督は、（サッカー協会内）の代表的な野党の役員だった当時（サッカー協会）の会長候補に出ることができる有力な候補だったホ OOさんと近い、こんな力学関係が、最終的に、レバノンに敗れたらチョ・グァンレ監督を更迭させたのですよ。常識と原則と手順がなく、韓国代表チーム監督は、このように更迭されましたよ。」（シン・ムンソン解説委員）

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com